

平成31年度(第9期) 事業計画書

(平成30年10月1日～平成31年9月30日)

公益財団法人松下社会科学振興財団は、平成22年9月22日に京都府より財団法人から公益財団法人への移行の認定書を受領し、今年度は第9期を迎えます。

平成6年に松下幸之助生誕100年を記念して開設された「松下資料館」の管理と運営を活動の主体と致しております。

松下資料館の来館者数は順調に増加してまいりましたが、平成30年度は8,400名、前年比100%となる見通しです。こうした中、パナソニック創業100周年を迎えたことから、パナソニックの関係者が創業の心に触れるために来館されるケースが顕著で、2,700名前年比124%と大きく増加する見通しです。又、中国を中心とする海外からの来館者は1,500名前年比100%となる見通しです。

平成31年度は、新たな視聴覚コンテンツの制作など展示内容のさらなる充実化を進め、来館者の皆様により大きな感動を与えるよう努めてまいります。

本年より講話に関して有料化を実施致しますが、円滑な業務運営により混乱なくスムーズな導入を図ってまいります。

また、恒例となりました松下資料館主催の講演会を実施すると共に、本年より外部の講師を招いた少人数制の公開講座である「松下資料館教養講座」を新たに年2回実施いたします。

「教養講座」は長期的に継続実施できるよう、そのルールづくりを行なってまいります。

一方、本年度の金融情勢につきましては、世界に蔓延する保護主義の台頭に伴う米・中の貿易摩擦等、不安定な世界経済環境の中、金融不安も高まり、為替変動が大きくなることが予測されます。

当公益財団は引き続き運用管理基準を遵守し、堅実かつ安全な資金運用に努め、財務内容の健全化を図るとともに、一層の経営基盤強化に努めてまいります。

I. 経営研究事業

1. 定期講演会の実施

「日本的経営を考える」研究事業の一環として毎年開催している講演会を実施してまいります。

- ・実施日 平成31年2月
- ・テーマ：「新・観光立国のすすめ」

講演者 デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社 社長）

日本はまだ観光後進国。観光大国となるための「気候」「自然」「文化」「食事」の4大条件が全て揃っている。そうした潜在力・強みを活かした戦略展開を提唱。その具体案を語っていただく。

- ・参加料：一人1000円

2. 「教養講座」の実施

研究事業の一環として、豊かで幸せな社会を創るために知っておきたい考え方・知識・情報等を、外部講師を招いて少人数制の公開講座として実施してまいります。

- ・毎年2回実施予定

① 第1回：「松下幸之助と真々庵」 2019年1月

松下真々庵 支配人 木下健久

② 第2回：「ハンディはプラスに転換できる！～松下幸之助の行き方・考え方をヒントに」 2019年8月

PHP研究所 研究推進部 平山所員

- ・参加料：各回 一人1000円

Ⅱ. 展示事業

1. 視聴覚コンテンツの新たな制作と配信システムへの編入

- ・現在展示室で鑑賞できる映像コンテンツは72タイトル
(主たるコンテンツは平成20年以前の制作)

○ 新たに10作品の視聴覚コンテンツの制作

⇒ 平成31年8月完成

- ・松下幸之助が語る映像および薫陶を受けた幹部が語る映像
- ・日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語の制作

○ 映像ブースで視聴できる配信システムへの編入

⇒ 平成31年9月編入

2. 関連先との連携強化

前年に引き続き松下資料館と関係の深い企業・団体との連携をさらに深め
松下幸之助哲学の普及とファンづくりに努めてまいります。

[対象] パナソニックグループ、PHP研究所、松下政経塾等

[目的] ①社員への浸透 ②得意先との関係強化

③社会貢献の一環 ④海外留学生との交流活動

Ⅲ. 経営図書館事業

1. 経営者執筆本・会社社史の充実化

経営者執筆本・会社社史の蔵書といった全国的にも特徴のある図書館として、
さらに充実化を図ってまいります。

- ・ホームページでの継続的な寄贈の呼びかけ
- ・社史編纂請負会社への寄贈依頼
- ・来館された企業幹部への声かけ

2、蔵書の整理

登録された蔵書の整理・入れ替えを継続的に実施し魅力ある図書館に致します。

平成30年7月現在 蔵書数

全蔵書数		20,758冊
内 経営者執筆本		2,552冊
会社社史	2,178社	3,448冊

IV. その他

1. ホームページの情報アップ

定期講演会・教養講座の案内やコンテンツ追加等の情報発信をさらに強化してまいります。

2、eメール配信

定期講演会・教養講座の参加者募集に向けeメールによる案内・申込み受付をさらに円滑に推進してまいります。